

令和3年度漁業担い手満足度調査報告書の概要

令和4年11月
岩手県農林水産部
水産振興課

1 調査の概要

- (1) 調査目的 本県における「なりわい」としての漁業の魅力について、漁業者の満足度を指標として定量化するとともに、満足度に影響を与える要因を分析し、就業環境の改善などの漁業担い手対策の参考とするもの。
- (2) 調査対象者 ①岩手県漁業士87名（青年漁業士21名、指導漁業士66名） ②若手漁業者72名（着業10年未満の漁業者）
- (3) 調査方法 設問票によるアンケート調査（総合満足度及び個別満足度30項目）
- (4) 実施時期 令和3年12月～令和4年1月
- (5) 有効回答数 ①岩手県漁業士52名（回収率59.8%） ②若手漁業者23名（回収率31.9%）
- (6) 総合満足度 次の算定式で数値化して分析

$$\text{総合満足度(平均点)} = \frac{(\text{'非常に満足'} \times 3) + (\text{'満足'} \times 2) + (\text{'やや満足'} \times 1) + (\text{'ふつう'} \times 0) + (\text{'やや不満'} \times -1) + (\text{'不満'} \times -2) + (\text{'非常に不満'} \times -3)}{\text{回答者数}}$$

※総合満足度は、3.00点～-3.00点の値で、高いほど満足度が高いことを表す。

- (7) 個別満足度 項目ごとに、「そう思う」、「まあ思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4段階で評価し、それぞれ「4点」から「1点」までの1点刻みで数値化して分析

2 総合満足度の推移

- (1) 回答者全体
 - 今回の調査では、回答者数75人に対して有効回答者数は69人であり、総合満足度は0.06点と、平成27年度の調査開始以降の最低値となりました（図1）。
- (2) 漁業種類別
 - 漁業種類別の総合満足度は、漁船漁業が0.17点、養殖業が0.08点、採介藻漁業が-0.40点となり、前回の調査と比べて、全ての漁業種類で低下しました（図2）。

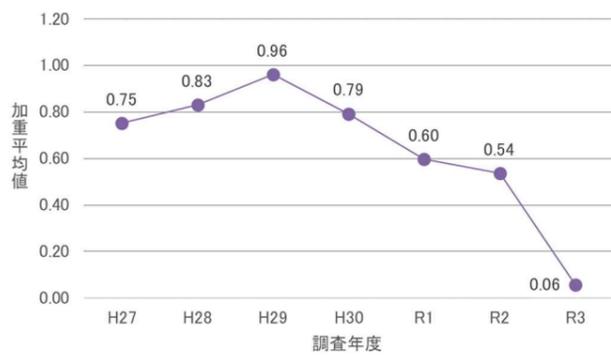


図1 回答者全体の総合満足度の推移 (n:有効回答者数)

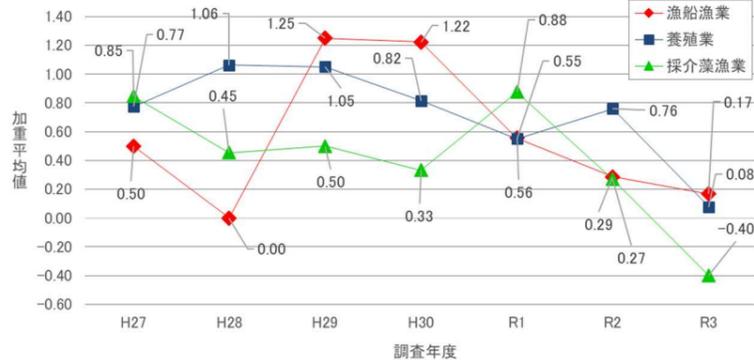
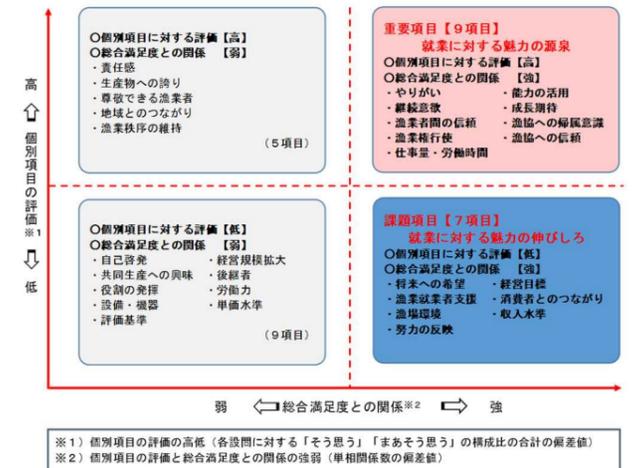


図2 漁業種類別の総合満足度の推移 (n:有効回答者数)

3 総合満足度の構造分析

- 個別満足度の評価項目（30項目）について、総合満足度との相関係数で評価し、総合満足度と関係が強く、かつ個別満足度の高い項目を『重要項目』、総合満足度と関係が強いものの、個別満足度の低い項目を『課題項目』と定義し、分析しました。
- 『重要項目』… 就業に対する魅力の源泉
- 『課題項目』… 就業に対する魅力の伸びしろ
- 今回の調査では、『重要項目』に「やりがい」、「能力の活用」、「継続意欲」、「成長期待」、「漁業者間の信頼」、「漁協への帰属意識」、「漁業権行使」、「漁協への信頼」、「仕事量・労働時間」の9項目が分類されました。
- また、『課題項目』として、「将来への希望」、「経営目標」、「漁業就業支援」、「消費者とのつながり」、「漁場環境」、「収入水準」、「努力の反映」の7項目が分類されました（図3）。



※1) 個別項目の評価の高低（各設問に対する「そう思う」「まあ思う」の構成比の合計の相関係数）
 ※2) 個別項目の評価と総合満足度との関係の強弱（単相関係数の相対値）

4 漁業種類別の個別満足度の分析（前年度調査との比較）

- (1) 養殖業
 - 「成長期待」、「共同生産への興味」の2項目で満足度が上昇しましたが、要因区分の“仕事”、“他の漁業者との関係”、“漁協との関係”を中心とした23項目で満足度の低下が見られました（表）。
- (2) 漁船漁業
 - 「能力の活用」、「後継者」、「漁協への帰属意識」の3項目で満足度が上昇しましたが、要因区分の“自己の成長”、“収入”を中心とした18項目で満足度の低下が見られました（表）。
- (3) 採介藻漁業
 - 要因区分の“自己の成長”、“漁協との関係”を中心とした13項目で満足度が上昇しましたが、「将来への希望」、「責任感」、「経営目標」、「単価水準」、「評価水準」などの10項目で満足度の低下が見られました（表）。

表 個別満足度評価表（漁業種類別）

要因区分	項目	養殖業				漁船漁業				採介藻漁業			
		R2	R3	前年比	満足度	R2	R3	前年比	満足度	R2	R3	前年比	満足度
仕事	やりがい	3.48	3.21	△ 0.27	↓	3.36	3.23	△ 0.13	↓	3.12	3.00	△ 0.12	↓
	将来への希望	2.90	2.56	△ 0.34	↓	2.64	2.15	△ 0.49	↓	2.54	1.80	△ 0.74	↓
	責任感	3.38	3.40	0.02	→	3.29	3.38	0.10	→	3.12	2.80	△ 0.52	↓
	能力の活用	3.29	3.09	△ 0.20	↓	2.93	3.31	0.38	↑	2.96	3.00	0.04	→
	生産物への誇り	3.50	3.40	△ 0.10	↓	3.07	3.15	0.08	→	3.54	4.00	0.46	↑
自己の成長	継続意欲	3.54	3.39	△ 0.15	↓	3.57	3.23	△ 0.34	↓	3.38	3.80	0.42	↑
	成長期待	3.12	3.29	0.17	↑	3.29	3.00	△ 0.29	↓	2.88	3.20	0.32	↑
経営目標	自己啓発	2.82	2.61	△ 0.21	↓	2.79	2.15	△ 0.63	↓	2.82	3.00	0.38	↑
	経営目標	2.88	2.77	△ 0.11	↓	2.71	2.69	△ 0.02	→	2.36	2.00	△ 0.36	↓
	経営規模拡大	2.68	2.44	△ 0.24	↓	2.64	2.54	△ 0.10	↓	2.23	2.20	△ 0.03	→
	共同生産への興味	2.08	2.19	0.11	↑	2.50	2.38	△ 0.12	↓	2.15	2.40	0.25	↑
他の漁業者との関係	後継者	2.14	1.88	△ 0.26	↓	2.00	2.31	0.31	↑	1.50	1.40	△ 0.10	↓
	尊敬できる漁業者	3.35	3.00	△ 0.35	↓	3.36	2.85	△ 0.51	↓	3.19	3.00	△ 0.19	↓
	漁業者間の信頼	3.43	3.18	△ 0.25	↓	3.29	3.31	0.02	→	3.19	3.40	0.21	↑
地域住民や消費者との関係	漁業就業支援	2.28	2.07	△ 0.21	↓	2.36	2.00	△ 0.36	↓	2.27	2.20	△ 0.07	→
	地球とのつながり	3.26	3.18	△ 0.08	→	3.00	3.08	0.08	→	3.31	3.40	0.09	→
	消費者とのつながり	2.36	2.12	△ 0.24	↓	2.00	2.08	0.08	→	2.19	2.20	0.01	→
漁協との関係	漁協への帰属意識	2.84	2.72	△ 0.12	↓	2.29	2.46	0.18	↑	2.96	3.40	0.44	↑
	漁業秩序の維持	3.26	3.16	△ 0.10	↓	2.79	2.54	△ 0.25	↓	3.27	3.60	0.33	↑
	漁業権行使	3.24	2.93	△ 0.31	↓	3.00	2.54	△ 0.46	↓	3.08	3.60	0.52	↑
	漁協への信頼	3.26	3.00	△ 0.26	↓	2.93	3.00	0.07	→	3.23	3.40	0.17	↑
労働条件	役割の発揮	2.65	2.48	△ 0.17	↓	2.43	2.42	△ 0.01	→	2.88	3.20	0.32	↑
	仕事量・労働時間	2.76	2.56	△ 0.19	↓	2.79	2.31	△ 0.48	↓	3.12	3.00	△ 0.12	↓
	労働力	2.46	2.44	△ 0.02	→	2.71	2.15	△ 0.56	↓	2.82	2.40	△ 0.22	↓
収入	設備・機器	2.84	2.61	△ 0.23	↓	2.50	2.54	0.04	→	2.54	3.40	0.86	↑
	漁場環境	2.50	2.46	△ 0.04	→	2.57	2.15	△ 0.42	↓	2.82	2.80	0.18	→
	単価水準	2.54	2.32	△ 0.22	↓	2.21	1.77	△ 0.45	↓	2.92	2.60	△ 0.32	↓
	評価水準	2.48	2.41	△ 0.07	→	2.14	2.00	△ 0.14	↓	2.77	2.40	△ 0.37	↓
	収入水準	2.70	2.40	△ 0.30	↓	2.57	2.15	△ 0.42	↓	2.77	2.80	0.03	→
	努力の反映	2.90	2.63	△ 0.27	↓	2.86	2.15	△ 0.70	↓	3.00	3.00	0.00	→

※満足度の評価「そう思う」:4「まあ思う」:3「あまりそう思わない」:2「そう思わない」:1の4段階で回答を得ており、項目平均の数値が大きいほど満足度の高さを示す。前年比0.1ポイント以上の変動で満足度の「上昇」「低下」を判断。

まとめ

- 総合満足度は、平成27年度の調査開始以降の最低値となり、その要因として、近年の海洋環境の変化による不漁などの影響を受けて、本県の主要魚種である養殖ワカメ、アワビ、秋サケ、サンマ、スルメイカ等の生産額が減少したことや、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う魚価の下落などが考えられるところであり、いずれの漁業種類においても、漁業経営の厳しさが増している中、養殖業や採介藻漁業が、上述の影響をより強く受けている状況が推察されます。
- 漁業を取り巻く環境や社会経済情勢が変化している中、「なりわい」としての漁業の魅力を向上させるためには、今回の調査で重要項目とされた「やりがい」や「能力の活用」などを重視しながら、課題項目とされた「将来への希望」や「経営目標」、「漁業就業支援」、「消費者とのつながり」、「漁場環境」、「収入水準」、「努力の反映」の視点から、改善の取組を戦略的に推進していく必要があります。
- 県では、引き続き、「岩手県漁業担い手育成ビジョン（令和3～4年度）」に基づき、市町村や漁協、漁業関係団体と連携し、次代を担う意欲ある新規漁業就業者の確保・育成と地域漁業の核となる強い経営体の育成に取り組めます。